

災害時の避難に関する専門調査会  
津波防災に関するワーキンググループ  
第3回会合

# 検討事項案

(第2回会合を踏まえた修正版)

## 津波防災に関するワーキンググループにおける検討の視点 等

### 課題

- 強い揺れや長い揺れを感じた場合に、津波から身を守り、迅速かつ自主的にできるだけ高い場所へ避難することの周知
- 行政や住民等にとって避難行動をとるための最初のきっかけである津波警報や避難指示等のあり方
- 警報自体の内容改善や津波ハザードマップの内容・あり方について取り組む必要性
- 津波避難は「揺れたら避難する」という単純なことであるが、実行されていないのが現状

### 目的・目指すべき姿

- 迅速かつ確実な避難を促すための情報提供
- 現象を含めた『情報』に応じた適切な行動の選択と実行

### 検討の視点

- 理想的な避難行動のあり方（「揺れたら避難」の推進に向けた対策のあり方）
- 津波てんでんこ家族等の安否確認のあり方
- 発生時に避難行動を促すための情報のあり方（津波警報等の改善、避難指示等の発令について）
- 自然現象の不確実性や現在の予測技術の精度を踏まえたリスクコミュニケーション
- 避難に有効に活用されるための 津波ハザードマップのあり方（ハザードマップで伝えるべき事項や津波警報との融合）

### 津波防災に関するワーキンググループにおける検討の視点 等

#### 課題

- 今回の震災では、広域的な停電、市町村の庁舎や防災行政無線自体の地震・津波による被災、あるいは防災行政無線の内容が聞こえづらかった等の課題
- 防災行政無線の充実や携帯電話の活用など伝達手段と必要な対策の検討
- 走行中の車両、運航中の列車、船舶や海水浴客等に対して、できるだけ速やかに、かつ、確実に津波警報等を提供する手段の検討

#### 目的・目指すべき姿

- 迅速かつ確実な避難を可能とするための情報伝達手段の強化・多様化

#### 検討の視点

- **監視・観測網を含めた**情報の発信者から受け手までの一連の情報伝達**体制**のあり方
- 発生時の状況(停電の発生等)を踏まえた確実な情報の伝達手段
- 対象別(住民、車両、船舶、海岸利用(海水浴客)等)の情報伝達手段のあり方

## 津波防災に関するワーキンググループにおける検討の視点 等

### 課題

- 東日本大震災において消防団員や警察官などの避難支援者に数多くの犠牲があった点
- 消防団員や警察官などが危険を回避するためには津波到達時間内での防災対応や避難誘導に係る行動ルールの必要性
- 高齢者や障害者など災害時要援護者の避難支援方策を徹底的に検討、事前に取り決めておく必要性
- **災害時要援護者の支援にあたって、把握が難しいなどの課題がある。**

### 目的・目指すべき姿

- 迅速かつ確実な避難を支援する側の安全確保
- 災害時要援護者の避難支援と支援者の安全確保

### 検討の視点

- ~~津波の特徴を踏まえた避難支援者の行動ルールの策定や災害時要援護者の支援のあり方~~  
(※検討の視点を下記のように具体的に示すことにより、重複となるため当初の表現を削除)
- **各地域に応じた津波避難における避難誘導ルールのあり方**
- **津波避難時における災害時要援護者の避難支援のあり方**

## 津波防災に関するワーキンググループにおける検討の視点 等

### 課題

- 徒歩避難を原則としつつ、やむを得ず自動車により避難せざるを得ない場合において、避難者が安全かつ確実に避難できる方策の検討
- これまでも徒歩避難を原則としてきたが、東日本大震災において車を利用して避難した方も多くみられる。

### 目的・目指すべき姿

- 迅速かつ確実な避難に自動車を使用する場合の安全性の確保
- 災害時の自動車利用に関する留意点・リスクの理解
- 自動車使用時に災害に遭遇した場合の避難行動の明確化

### 検討の視点

- 徒歩避難原則の徹底と各地域の自動車避難の検討に資するためのポイント・留意点の整理
- 安全・確実な自動車避難のために必要な対策
- 各地域の自動車避難の検討のためのポイント・留意点の整理(自動車避難の障害となりうる事象や自動車避難をせざるを得ないケースの整理)
- 地域の状況を考慮し、地域で検討する場の整備

## 津波防災に関するワーキンググループにおける検討の視点 等

### 課題

- 迅速かつ確実な住民等の避難行動を軸とした総合的な津波対策
- 津波到達時間が短い地域では、概ね5分程度で避難が可能となるよう避難場所や避難路等の整備の必要性
- 海岸利用者等の避難対策について検討が必要

### 目的・目指すべき姿

- 迅速かつ確実な住民等の避難行動
- 住民等の迅速かつ安全な避難に資する施設の整備

### 検討の視点

- 短時間で避難を可能にするための備え
- 地域性(急傾斜地や平野部、都市部や地方集落)を考慮した防災対策のあり方
- 避難計画(避難行動、避難場所、海水浴客などの避難誘導)のあり方
- 地域の状況を考慮し、地域で検討する場の設定

## 津波防災に関するワーキンググループにおける検討の視点 等

### 課題

- 地震・津波は自然現象であり、想定を超える可能性があることを十分に認識すべきであり、地震・津波の科学的理解を深め、住民等の防災意識の向上に努める必要性
- 東日本大震災では、地震・津波に対する防災教育の必要性・重要性が改めて認識された
- 継続的かつ定期的に具体的・実践的な訓練を実施するなどの工夫を行うべき

### 目的・目指すべき姿

- 迅速かつ確実な避難行動を行える防災文化の醸成
- 地域特性を把握した上で迅速かつ適切な対応ができる社会の構築

### 検討の視点

- 持続性を持った防災教育・普及啓発のあり方
- 実践的な防災訓練のあり方